



# 校長室だより 一步一步



少し早めに始まった冬休み、子ども達は有意義に過ごしたでしょうか。二学期の終業式には、二学期を振り返って、自分のよかったところは何か、直したらよいところは何かを見つめて、リセットしてきましょうと話しました。自分を振り返って見つめ直すことができたでしょうか。リセットし、リフレッシュして三学期をむかえたことを願います。



## 明けましておめでとうございます

始業式では、新たな気持ちでがんばろうという顔がたくさんみられました。頼もしい限りです。三学期は短いですが、次の学年への重要なつなぎの学期です。また、六年生にとっては、小学校最後の学期です。今の学年のことをしっかりと身に付け、次の学年への準備がしっかりと出来るよう頑張してほしいと思います。



中国の管仲という人の言葉に、次のような言葉があります。

「ある人に、魚を一匹与えれば、その人は一食を得る。

魚の捕り方を教えれば、その人は生涯食べる。」

お腹がすいて食べたい人に、魚を与えることは、その時は確かにその人は喜びます。しかし、本当にその人のことを考えたときには、魚の捕り方を教えることが有効であり大切である。つまり、目の前のことだけでなく、本当に必要なことを考えていくことが大切である、という教えだと思えます。

学校で学ぶ様々なこと（学習だけでなく、学習規律や生活習慣、集団でのふるまい等々）はまさに「魚の捕り方」を学ぶことではないでしょうか。子どもたちはつい「今」楽しいこと＝「一食を得る」を優先して、しんどいことはなるべく後回しや、やりたくないと避ける傾向があります。しかし、その「しんどいこと」をしっかりと身に付けることが、明日の自分のためになるのではないのでしょうか。

スポーツでもなんでも、「少ししんどい」ことや「精一杯+あとひといき」ががんばることで、力が付き伸びていきます。そして、力がついてしまうと、以前の自分が苦勞したことがまったく平気になっています。成長はその連続ではないのでしょうか。

始業式には、以上のようなことを、子どもたちに話しました。少しでも、今やらなくてはならないことの意義を理解して、よい三学期をすごしてほしいと思います。

